

研究分野別評価

1. 評価の概要

「農林水産研究基本目標」にかわる新たな「農林水産研究に関する基本計画（研究基本計画）」を平成17年に策定することを踏まえて、現行の基本目標を着実に達成するために策定された「農林水産研究・技術開発戦略（戦略）」について全般的、概括的に評価を実施することとした。

（平成16年度委員会等）

5月18日 土地利用型・作物育種合同分科会

5月21日 食品分科会

6月22日 第1回評価専門委員会（研究分野別評価書（案）の審議）

7月13日 第2回評価専門委員会（研究分野別評価書（案）のとりまとめ）

2. 評価結果

評価専門委員会で取りまとめられた現行戦略の9つの分野の達成状況については、

- ・ 食品研究等の3分野については、十分な成果が得られている
- ・ 土地利用型農業研究等の5分野は、概ね順調に研究が進んでいる
- ・ 農山漁村研究については、今後の一層の取り組みの強化が必要である

と評価された。

戦略の全般的・概括的な評価を行った結果としては、全体的には、期別達成目標に向かって概ね順調に研究が進んでおり、研究成果をあげているものと判断される評価結果となった。

3．反映方針

今回、全般的・概括的に評価を行い、まとめられた本評価において、個別に内容の見直しや一層の充実が必要であると指摘した事項については、新研究基本計画の研究開発の重点目標の設定に反映させることとしていく。

平成16年度研究分野別評価結果（案）及び反映方針（案）

| 研究分野 | 評価結果 | 反映方針 |
|-------------------|---|---|
| 戦略の総括的・概括的評価（全分野） | <p>全ての分野が、期別達成目標に向けて概ね順調に研究が進んでおり、成果が出されていると判断。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き具体的な研究政策目標を示すとともに、工程表を明示することが重要。 ・一層の効率的かつ効果的な研究を推進する観点から、医学等を含めた産学官の連携体制が重要。 ・現行の個別の研究領域において、 <ul style="list-style-type: none"> 作物生産技術に係る分野の研究は、産学官の連携により先導的な研究開発を取り入れるとともに、生産現場での総合的な研究を行い、普及促進を視野に入れた技術開発とすることが重要。 遺伝子組換え作物の作出等ゲノム等先端技術の実用化は、研究の企画、推進、成果の実用化の各段階において、国民の理解を得つつ推進する必要。 農山漁村活性化に係る研究開発の重要性から、農山漁村がもつ文化教育機能を含めた研究等について、社会の要請に応えられるよう臨機応変に対応していくことが重要。 国際農業研究は、国際社会の持続可能な発展に貢献するとともに、研究水準や各国の置かれた状況を考慮して、推進方向を設定する必要。 ・新たに検討すべきと考える内容として、 <ul style="list-style-type: none"> 食の安全や環境など、他の分野と共有する部分が多いものについては、社会の要請を考慮して、横断的かつ機動的な研究推進のための仕組みを構築することが重要。 食品の安全性や機能性の研究開発は、的確なリスクの分析、基礎から実用化までの広範かつ先導的な研究開発を実施していく必要。 農林水産業を取り巻く環境問題に対しては、化学物質依存からの脱却、循環型社会の形成、過疎化等の進展による農耕地の荒廃等への対応を目指し、地域循環型システムの構築や多面的機能の高度な発揮のための技術開発が重要。 望ましい農業構造の確立に向け、「経営研究」の位置づけの明確化が重要。 ・研究政策目標の達成に当たっては、不測の事態も考慮に入れた柔軟な課題設定を行うことが必要。 ・評価手法の高度化の観点から、対象研究の特徴を踏まえるとともに、科学への貢献度合いや成果の普及状況等を考慮できるよう適切な評価手法の充実に引き続き努めていくことが重要。 | <p>今回、全般的・概括的に評価を行い、まとめられた総合評価において、個別に内容の見直しや一層の充実が必要であると指摘した事項については、新計画の研究開発の重点目標の設定に反映させることとしていく。</p> |